

Q 消費税大増税と市の施策展開

A 国の方向性を注視する

高田 克彦 議員



質問一 今回の消費税大増税についてどう思うか。

二 鶴ヶ島市の自殺者数の推移は

三 地方消費税交付金ほどのようになるのか。

四 市民負担軽減策を展開すべきでは。

答弁一（市長） 今後の財政負担の増加に対応し安定的な財源を確保するためには、やむを得ないものと判断している。

二 厚生労働省人口動態統計をもとに埼玉県がまとめた資料によると平成18年は9人、19年は17人、20年は15人、21年は21人、22年は19人、23年は警察庁の統計によると17人である。

三 消費税が8割になった場合は9億5981万3千円に、10割になった場合は12億4211万1千

円になると試算できるが、単純計算できるものではなく、この増収分がそのまま財源の増と見込めるものでもなく、今後の国の方向性や予算状況を注視していく必要がある。

四 国として低所得者に配慮した措置をしっかりと検討されることになっており、確実になされるものと考えている。

◎**その他の質問** 図書館の外部委託は市の文化施設の終えんだ

Q

就任8年目に向けた予算編成

A

積極的な予算編成を行う

齊藤 芳久 議員

質問一 財政再建の状況について。

二 市役所改革の状況について。

三 教育改革の状況について。

四 次年度に向けての財政、予算の見通しについて。

答弁一（市長） これまでの成果をもって達成したと言い切れるものではなく、再建の途上にあるも

のとして引き続き取り組んでいくべきものと考えている。

二 前例踏襲や先送りといった役人文化を改め、すべての事業を見直し、新たな時代の新しい市役所への改革を進めてきた。

これからも臆することなく課題解決に取り組む、時代の変化に対

応できる市役所にしていく。

三 基礎学力の定着と確かな生活力を育んでいくことが義務教育に課せられた大きな使命であると考えている。

教育委員会は成果を上げつつありと認識している。

四 平成25年度は総合計画に基づく市の将来につながる主要事業が形になってくるので、今までの財政再建の成果を生かし、市債や基金からの繰入金も利用して、今ここでしなければならぬ事業に積極的に取り組む予算編成を行っていく。

